

2018年度

小児看護学実習

[表紙1]

【提出記録用紙】

- 1 実習評価表
- 2 課題レポート
- 3 日々の体験記録

学生証番号： K F _____

学生氏名 ： _____

実習期間 ： 月 日 ~ 月 日

実習施設名： _____

担当教員名： _____

指導者名 ： _____

看護学科3年 専門教育科目

2018年度

小児看護学実習

[表紙2]

【提出記録用紙】

- 1 事例報告会抄録
- 2 実習計画表
- 3 アセスメント用紙1
- 4 アセスメント用紙2
- 5 問題リスト
- 6 看護過程展開用紙
- 7 プロセスレコード
- 8 患者情報メモ

学生証番号： K F _____

学生氏名 ： _____

実習期間 ： 月 日 ~ 月 日

実習施設名： _____

担当教員名： _____

指導者名 ： _____

看護学科3年 専門教育科目

授業科目名：小児看護学実習

単位／時間：2単位／90時間

対象／開講：16KF／3年生 通年

担当教員：湊田 明子、木村 節子、吉田 裕子

ディプロマポリシーとの関連： ○該当する ◎特に該当する

- ◎ 1. 人間の生命と尊厳および権利を尊重した行動がとれる。
- ◎ 2. 自律した一人の人間として、社会や他者へ責任のある行動がとれる。
- ◎ 3. その人らしい生活を整える視点を持つことができる。
- ◎ 4. 科学的根拠に基づいた知識及び技術を用いて、対象にあった看護を計画的に提供できる。
- ◎ 5. 問題意識を持ち、学び続けることができる。
- ◎ 6. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を自覚し、主体的に行動できる。
- ◎ 7. 社会の変化に伴って生じる保健医療福祉の問題に関心をむけ、倫理的課題への感受性を高め、責任ある行動がとれる。
- ◎ 8. 幅広い視点から対象を理解し、経験を統合して自分のめざす看護が述べられる。

【目的】：

小児の成長発達段階と病状に応じた看護が理解できる。

【中核目標】：

- I. 小児各期の成長発達を理解し小児と家族の看護の特徴を理解する。
- II. 受け持ち患児の成長発達と病状に応じた看護過程が展開できる。
- III. 小児の成長発達の特徴に応じた看護技術が実践できる。
- IV. 医療チームにおける看護の役割を理解し看護学生としての責任を果たすことができる。

中核目標 I 小児各期の成長発達を理解し小児と家族の看護の特徴を理解する。

行 動 目 標

1. 小児各期の成長発達の特徴を説明できる。
2. 小児各期の基本的生活習慣の自立について説明できる。
3. 小児と家族の生活環境について説明できる。
4. 病気や入院が小児と家族に及ぼす影響について説明できる。
5. 病気や入院により小児と家族が必要とする看護について説明できる。

中核目標 II 受け持ち患児の成長発達と病状に応じた看護過程が展開できる。

行 動 目 標

1. 発達段階、病状に応じたコミュニケーションをとることができる。
2. 病状と治療内容が説明できる。
3. 検査、処置の目的を理解し、患児に及ぼす影響を説明できる。
4. 病気や入院を患児と家族がどう受け止めているか説明できる。
5. 病状と治療経過、成長発達、家族の視点から情報をアセスメントできる。
6. アセスメントを統合し、患児の全体像を関連図を用いて説明できる。
7. 看護上の問題を抽出して、優先順位を設定できる。
8. 達成可能で具体的な患者目標を設定できる。
9. 患児の状態に応じた具体策を立案できる。
10. 具体策に基づき、患児の反応を観察しながら援助を実施できる。
11. 実施した援助を評価できる。
12. 評価に基づき、計画を修正して変更できる。

中核目標 III 小児の成長発達の特徴に応じた看護技術が実践できる。

行 動 目 標

1. バイタルサインの測定、状態の観察ができる。
2. 療養中の日常生活を整える援助ができる。
3. 状態に応じた遊び、学習の援助ができる。
4. 治療、検査、処置、療養行動の援助ができる。
5. 発達と特性に応じた事故防止のための援助ができる。
6. 感染予防のための援助ができる。
7. 回復や自立に向けての教育、指導ができる。

中核目標 IV 医療チームにおける看護の役割を理解し看護学生としての責任を果たすことができる。

行 動 目 標

1. 小児を取り巻く医療、保健福祉、教育の職種の連携が理解できる。
2. 医療チームの中での看護師の役割が理解できる。
3. 子どもの権利を尊重したかわりができる。
4. 個人情報保護を遵守することができる。
5. 看護チームの一員として、援助の実施に際して報告・連絡・相談ができる。
6. 実習課題の解決に向けて、文献学習、グループ討議等、主体的に行動できる。
7. 実習での経験に基づき、小児看護に関する自己の考えを説明できる。
8. 自己の課題の達成度を評価して、今後の課題について説明できる。

小児看護学実習評価表				学生証番号:	氏名:		
				実習期間:	実習場所:		
項目	自己評価	臨床指導者評価	教員評価	項目	自己評価	臨床指導者評価	教員評価
中核目標 I 小児各期の成長発達を理解し小児と家族の看護の特徴を理解する。	よふ要 つ努 いう力	よふ要 つ努 いう力	よふ要 つ努 いう力	中核目標 IV 医療チームにおける看護の役割を理解し看護学生としての責任を果たすことができる。	よふ要 つ努 いう力	よふ要 つ努 いう力	よふ要 つ努 いう力
1 小児各期の成長発達の特徴を説明できる。	____	____	____	1 小児を取り巻く医療、保健福祉、教育の職種の連携が理解できる。	____	____	____
2 小児各期の基本的な生活習慣の自立について説明できる。	____	____	____	2 医療チームの中での看護師の役割が理解できる。	____	____	____
3 小児と家族の生活環境について説明できる。	____	____	____	3 子どもの権利を尊重したかわりができる。	____	____	____
4 病気や入院が小児と家族に及ぼす影響について説明できる。	____	____	____	4 個人情報保護を遵守することができる。	____	____	____
5 病気や入院により小児と家族が必要とする看護について説明できる。	____	____	____	5 看護チームの一員として、援助の実施に際して報告・連絡・相談ができる。	____	____	____
中核目標 II 受け持ち患児の成長発達と病状に応じた看護過程が展開できる。	よふ要 つ努 いう力	よふ要 つ努 いう力	よふ要 つ努 いう力	6 実習課題の解決に向けて、文献学習、グループ討議等、主体的に行動できる。	____	____	____
1 発達段階、状態に応じたコミュニケーションをとることができる。	____	____	____	7 実習での経験に基づき、小児看護に関する自己の考えを説明できる。	____	____	____
2 病状と治療内容が説明できる。	____	____	____	8 自己の課題の達成度を評価して、今後の課題について説明できる。	____	____	____
3 検査、処置の目的を理解し、患児に及ぼす影響を説明できる。	____	____	____	目標達成度	中間 最終 %	____	____
4 病気や入院を患児と家族がどう受け止めているのか説明できる。	____	____	____	出席状況	出席 欠席 遅刻 早退	____	____
5 病状と治療経過、成長発達、家族の視点から情報をアセスメントできる。	____	____	____	自己評価	中間 最終	____	____
6 アセスメントを統合し、患児の全体像を関連図を用いて説明できる。	____	____	____	サイン	____	____	____
7 看護上の問題を抽出して、優先順位を設定できる。	____	____	____	臨床指導者評価	サイン	____	____
8 達成可能で具体的な患者目標を設定できる。	____	____	____	教員評価	サイン	____	____
9 患児の状態に応じた具体策を立案できる。	____	____	____	総合評価	S A B C D E	____	____
10 具体策に基づき、患児の反応を観察しながら援助を実施できる。	____	____	____			____	____
11 実施した援助を評価できる。	____	____	____			____	____
12 評価に基づき、計画を修正して変更できる。	____	____	____			____	____
中核目標 III 小児の成長発達の特徴に応じた看護技術が実践できる。	よふ要 つ努 いう力	よふ要 つ努 いう力	よふ要 つ努 いう力			____	____
1 バイタルサインの測定、状態の観察ができる。	____	____	____			____	____
2 療養中の日常生活を整える援助ができる。	____	____	____			____	____
3 状態に応じた遊び、学習の援助ができる。	____	____	____			____	____
4 治療、検査、処置、療養行動の援助ができる。	____	____	____			____	____
5 発達と特性に応じた事故防止のための援助ができる。	____	____	____			____	____
6 感染予防のための援助ができる。	____	____	____			____	____
7 回復や自立に向けての教育、指導ができる。	____	____	____			____	____

I 実習方法

1. 実習時間は原則8:30～16:30で、実習スケジュールに基づいて行う。
2. 小児病棟では安静時間(13～15時)、保育時間、院内学級など、子どもの生活リズムに合わせて実習計画を立てる。
3. 1日の行動開始前に、実習計画表を教員・指導者に提示し、計画内容の確認、助言を受けて実践する。
4. 午後の個別相談は教員または指導者と一人20分程度行い、看護の援助やアセスメントに関して疑問を解決し、翌日の実習計画に活かす。
5. 日々のカンファレンスは病棟毎に行うが、事例報告会は6B病棟、8A病棟の合同で行い、小児の成長発達段階と病状に応じた看護について共有学習する。

II 実習スケジュール

週	曜	スケジュール・学習内容	学習方法・留意点
第1週	月	8:30～10:00 ①全体オリエンテーション	①建学の精神、教育方針、教育目標をふまえて、実習目的、実習目標、注意事項などをオリエンテーションで再確認し、この実習で何を学ぶのか明確にする。
		10:30～12:30 ②病棟オリエンテーション ③受け持ち患児の決定	②病棟責任者、臨床指導者より小児病棟についてオリエンテーションを受ける。 ③疾患、治療段階、成長発達をふまえて、学生間で話し合って受け持ち患児を決定する。
		13:30～13:50 ④病棟見学	④6B学生は8A、8A学生は6Bを見学し、それぞれの病棟の違いを知る。
		14:00～15:30 ⑤受け持ち患児の紹介 ⑥情報収集	⑤受け持ち患児、面会に来られていれば家族にも挨拶をする。 ⑥カルテ、カーデックスから受け持ち患児の情報を収集する。疾患、治療経過だけでなく、日常生活の援助(食事、排泄、清潔、活動、睡眠等)についても確認する。
		15:30～ ⑦自己またはグループ学習	⑦収集した情報から、疾患、治療、成長発達、看護技術について自己またはグループ学習をする。(図書館も使用可)
	火	午前 ①受け持ち患児の看護場面の見学・実施 午後 ②個別相談・実習計画の確認 ③情報収集	①受け持ち患児の一日の生活リズム(治療、処置、検査等も含む)を把握する。見学および事前学習した看護技術については、助言・指導のもとで援助を実施する。(例:環境整備は見学ではなく、成長発達、病状をふまえて注意点を確認できれば実施する。) ②教員または指導者と一人20分程度の相談時間をもち、受け持ち患児の疾患、治療経過を中心に自己学習した内容の理解度を確認する。また今日、見学・実施した看護場면을翌日の実習計画に活かせるようにする。 ③相談以外の時間は各自で情報収集および自己学習を行う。
水	午前 ①受け持ち患児の看護場面の見学・実施 午後 ②情報整理 (個別相談なし)	①受け持ち患児の生活リズムに応じて、助言・指導のもとで援助を実施する。 ②アセスメント用紙1および用紙2を用いて受け持ち患児の情報を整理し、看護上の問題を明らかにする。中核目標2 行動目標1～6までの内容が整理できるとよい。	
木	午前 ①実習計画に基づく看護の実施 午後 ②カンファレンス テーマ「受け持ち患者の全体像」	①受け持ち患児の看護上の問題をふまえて、助言・指導のもとで援助を実施する。関わりながら不足している情報の収集を行う。 ②アセスメント用紙2を用いて、受け持ち患児の全体像について一人10分程度で発表し、学生間で意見交換を行い、看護上の問題および患者目標を明らかにして、看護計画立案につなげる。	
金	午前 ①実習計画に基づく看護の実施 午後 ②カンファレンス ③個別相談・実習計画の確認 ④中間評価	①受け持ち患児の看護上の問題をふまえて、助言・指導のもとで援助を実施する。関わりながら不足している情報の収集を行う。 ②カンファレンステーマは事前に話し合い決定する。 ③教員または指導者と一人20分程度の相談時間をもち、看護計画を確認する。 ・問題リストを記入し、看護上の問題の優先順位を明らかにする。 ・受け持ち患児に応じた患者目標、具体策であるかどうか検討する。 ④各自で実習評価表に基づいて中間評価を行い、1週目の学習を振り返り、2週目の課題、目標を明らかにする。	

第 2 週	月	午前 ①看護計画に基づく看護の実施 午後 ②カンファレンス ③個別相談・実習計画の確認	①看護計画に基づいて、助言・指導のもとで援助を実施する。 ②カンファレンステーマは事前に話し合い決定する。 ③教員または指導者と一人20分程度の相談時間をもち、看護計画を確認する。 ・実施した援助を、受け持ち患児の反応に留意して評価する。 ・評価に基づいて看護計画を修正する。
	火	午前 ①看護計画に基づく看護の実施 午後 ②カンファレンス ③個別相談・事例抄録の確認	①看護計画に基づいて、助言・指導のもとで援助を実施する。 ②カンファレンステーマは事前に話し合い決定する。 ③教員または指導者と一人20分程度の相談時間をもち、事例抄録について相談し、発表内容、まとめ方について確認する。
	水	午前 ①看護計画に基づく看護の実施 ②受け持ち患児への挨拶 午後 ③事例抄録の作成 (個別相談なし)	①看護計画に基づいて、助言・指導のもとで援助を実施する。 ②病棟での援助が最終日となるため、受け持ち患児に挨拶を行う。 ③各自で受け持ち患児に実施した看護についてまとめ、事例抄録を作成する。
	木	8:30～11:30 ①事例報告会抄録の作成および報告会の準備 11:00 ②事例報告会抄録集の提出 12:30～16:30 ③事例報告会	①各自で事例抄録をまとめて全員分をコピーする。全員が完成したら表紙(プログラム)を付けて抄録集を作成する。 ②11時までに抄録集を病棟、教員に提出する。提出後、休憩を入れて、12時30分から事例報告会が行えるように、会場の配置、進行について準備を行う。 ③目的が達成できるように全員で協力して事例報告会を進行する。
	金	8:30 ①病棟への挨拶 9:00～ ②評価面接 実習記録のまとめ 課題レポート作成 16:30 ③実習記録の提出	①申し送り時に、病棟スタッフに向けて2週間の学びを報告する。 ②面接時間は一人20分程度で行う。この実習での学びを発表できるように事前に準備をしておく。面接の順番は学生間で決める。面接以外の時間は実習記録のまとめを行う。 ③教員に指示された場所へ提出する。期限までに提出ができない場合は、教員に事前に相談する。

課題レポート

テーマ「小児看護学実習で学んだこと」

サブテーマを各自で付ける

A4版レポート用紙 3枚程度(ワープロ使用可・40字×30行)

Ⅲ 実習評価

1. 東海大学医療技術短期大学実習に関する細則の規定により、実習評価は実習日数の3分の2以上を出席したものを対象とする。
2. 評価は実習の全プロセスを対象とし、評価表に基づいて行い、到達度(%)を各自で集計し、自己評価する。
3. 実習最終日に評価面接を行う。(中間評価は、1週目の終わりに各自で評価表に基づいて行う。)
4. 最終評価は、学生の自己評価、臨床指導者の評価をふまえ、担当教員が行う。
5. 評価は、S・A・B・C・D・Eで判定する。

IV 小児看護学実習についての確認・留意事項

1. 実習前の学習課題

- 1) 「子どもの成長発達の基本知識」「小児看護技術演習ノート」を復習しておく。
- 2) 小児病棟では化学療法中の患児が多いため、化学療法の看護について血液検査データの見方を含めて事前に学習しておく。
- 3) 実習の目的、目標を確認し、これまでの実習での課題をふまえて自己の課題を明らかにしておく。

2. 実習初日の持参物品

- 1) キャンパスナビ
- 2) 実習要綱総説
- 3) 小児看護学実習要綱
- 4) 実習計画表
- 5) 子どもの成長・発達の基礎知識
- 6) 小児看護技術演習ノート
- 7) 看護技術到達度記録
- 8) 実習中のグループ連絡網(6B・8A病棟別に作成し、リーダー、サブリーダーも決める)

3. 欠席、遅刻の報告について

- 1) 欠席、遅刻の場合は、実習開始前までに教員(不在時は指導者)に電話で連絡を行う。
- 2) 連絡先
東海大学医学部付属病院 0463-93-1121
教員室 内線3901、3902
6B病棟 内線8631
8A病棟 内線8811
- 3) 健康に問題が生じたときは、受け持ち患児への影響もあるため、速やかに教員に報告すること。

4. 実習中の報告について

- 1) 朝の申し送り前に、グループの代表者が出席状況、健康状態、その日の予定を報告する。
- 2) 申し送り終了後、教員、指導者、受け持ち患児担当の看護師にその日の実習計画を報告して援助を開始する。
- 3) 午前中の報告は、受け持ち看護師に11時までに、11時以降に実施した内容については、午前の実習終了までに教員または指導者へ報告する。
- 4) 検温など子どもの状態の変化に関わる報告は、随時報告する。
- 5) 検査の介助・見学等で病棟を離れるときは、必ず事前に教員または指導者に報告する。

5. 物品の貸し出しについて

- 1) バイタルサイン測定の検温等に必要の物品を大学より貸し出すので、丁寧に使用すること。
- 2) 物品係2名を選出し、午前の実習終了までに過不足や破損がないか毎日点検し、記録をする。
- 3) 病棟実習終了時に貸出物品の返却を行う。
- 4) 6B・8A病棟では、実習用名札を使用し、安全に留意して指示された位置に取り付ける。
- 5) 6B病棟では実習用エプロンを使用し、クリーニング方法等取り扱いについての説明を別途行う。

6. カンファレンスについて

- 1) 受け持ち患児の看護について、テーマを決めて意見交換をして理解を深める。
- 2) 事前にテーマを決定し、司会・書記はカンファレンスが30分で行えるように進行する。
- 3) 病棟毎に指定された場所(教室または病棟)で行う。
- 4) 書記録は翌日までに参加者全員にコピーして配布する。

7. 患者情報メモについて

- 1) 各自のメモ帳は使用せず、指定の患者情報メモをクリップボードに挟んで使用する。

8. 事例報告会について

目的:受け持ち患児の看護を通しての学びを発表しあい、発達段階と病状に応じた看護について理解を深める。

1) 抄録作成の手引き

- ・A3用紙2枚以内(両面コピーで1枚にする)にまとめる。
- ・手書きのみ可
- ・抄録は以下の項目について記入する。(実習初日オリエンテーションで用紙を配布)

①テーマ	報告したい内容が浮き彫りになるように具体的に記述する。 (例:化学療法中の3歳児の日常生活の援助からの学び)
②はじめに:	報告しようと思った動機、目的などを記述する。
③患児紹介	病状および治療の経過、成長発達段階等など、患児の全体像がわかるように記述する。
④看護上の問題/ 問題確認までのプロセス:	どのように問題を抽出したのか根拠や関連を記述する。看護上の問題が複数ある場合は、何をこの抄録で取り上げたのか明示する。
⑤患者目標:	④で取り上げた看護上の問題を解決するための患者目標を記述する。
⑥看護の実際:	どのような看護を実施したのか、その場面がわかるように患児の反応も含めて具体的に記述する。
⑦事例からの学び:	実施した看護が患児にとってどうであったかの評価も含めて記述する。
⑧今後の課題:	事例からの学びを今後の看護にどう活かすのか具体的に記述する。
⑨引用・参考文献:	記載方法は原則に基づいて表記すること。

2) 運営について

- ・6B病棟、8A病棟、合同で事例報告会を行う。
- ・効果的に共有学習するために、発表順番や質疑応答の時間配分等を工夫する。
- ・当日は11時まで、各自の抄録をまとめ表紙(プログラム)を付けて抄録集を作成し、参加者全員分をコピーし、病棟、教員に提出をする。
- ・報告会では意見交換が十分にできるように、机の配置、ネームプレートの作成等の準備を行う。
- ・司会、書記、タイムキーパーを決め、全員で協力して進行をする。
- ・発表時間は一人10分、質疑応答・休憩は40分を適宜配分、講評時間は20分とする。

